

清元 顔見世芸者

作詞 駒井義之 作曲 清元美治郎 作舞 西川鯉矢

歌舞伎や役者が大好きな京の芸者-今日も棧敷で顔見世見物に大はしゃぎ。

「吉田屋」の伊左衛門と夕霧の濡れ場、「保名」を楽しく鑑賞。幕間には轟眞の役者さんの楽屋にも訪れます。芝居がはねた後、来る年の幸せを願って八坂神社にお参りに出かけるという芸者の日常を描いた作品です。初演の舞台を観た時、とても楽しい作品だなあと印象に残りました。大阪で初演されたので、

今日、京都で踊らせていただくにあたり、少し変更させていただきました。

京四条 月も凍るや東山 師走の風に幟はためき まねきが招く櫓下 稽古稽古にお座敷と日ごと夜ごとの花勤め お酌するより芝居好き 轟眞役者のお好み多き京芸妓 ほんに嬉しいのんどっせ顔見世芝居 棧敷東西色めきて 待つに待たる狂言は松島屋京屋はん 和事二枚目傾城の廓文章吉田屋一幕
花の廓の軒行燈 訪ね来る来る紙衣立 人目忍びし深編み笠の 頬は凍てつく
藤屋伊左衛門 恋し夕霧 いかさまそうじゃなあ 恋も誠も世にある時人の心
はあすか川 変わるは勤めの習いじゃもの会わずにいつそ帰りましょう さりながら喜左衛門夫婦の心使い 会わずにいんではこの胸が すまぬ心の闇の夜
月にむら雲影おぼろ いとしわが夫お越しやんしたかと抱きついで嬉し涙
に暮の鐘 申し伊左衛門さま 目をさまして下しゃんせ わしゃわすろうてなあ
あ 春巡り二年越しにおとずれの聞くに聞かれぬ廓どり お前案じてこの病
お目に見えぬかこのやつれ 針よ薬と命繋ぎしはこなさんの胸に甘えさせて
もらいたさ情けないぞえお前の言葉 むごいぞえお前のしうち 涙涙の声はつ
まりて嘆きいたりける 申し申し伊左衛門さまお前様の御勘当もゆりました
目出度いめでたいめでたいのう皆の者花じゃ花じゃ 目出度かりける 幕内は
楽屋雀の長廊下 染めたのれんが嬉しくも 聞きかねては恥ずかしや迷う手元
の部屋見舞 お入りの声にほっと溜息一つ 見れば鏡のやさ姿 見とれてつい
に煎茶一服飲みあえず はや廻りか一丁柵 尾上の家が伝えし当たり芸 七代
目菊五郎が所作事保名 なんじゃ恋人がそこにいた どれどれどれどれ また
嘘言うかわっけもないこと言うはやい 夜さの泊まりはどこが泊まりぞ 草を
敷寝の肘枕肘枕 一人明かすぞ悲しけれ悲しけれ 似た人あらば教えてと振の
小袖を身に添えて 狂い乱れて伏し沈む 打ち出しの響きは渡る冬の風 尽き
ぬ名残の芝居文字 一年遅しとはやも待たるる京の暮 「そうや来年こそはえ
え旦那はんがみつかりますように祇園はんへお詣りしましょ」頼む願いの京鬘
黒髪 「初雪や」散りて舞うは散りて舞うは八坂道 足取り軽き祇園詣出の左
褌 とんとんとん来る初春の願いかけるは祇園八坂のお社さんへ ひとつ正月
稽古しましょ 舞は舞初め お茶は初釜 唄や三味線笛も太鼓も春のひき初め
とりどり 二人揃うて若菜摘み……